いま「協同」を拓く 2002 全国集会 in 九州

主催者挨拶

石田静男（実行委員長／福岡県高齢者生活協同組合理事長）

この「協同」を拓く全国集会というのは、九州では初めてでございます。

実行委員会を代表しまして、開会にあたり一言ご挨拶いたします。

最初にこの集会を企画しまして、早々に講演をご快諾くださいました作家の佐木先生、それから来賓でご出席いただき特別報告をしてくださいますILO駐日代表の堀内様、そして、この会場をお貸しくださいました九州国際大学の諸先生方のご好意に改めて心からの感謝を申し上げたいと思います。私どものこの集会の幅を広げさらに格を上げていただいたことを、心からお礼を申し上げます。

それから、この集会の呼びかけに応えて九州各県、全国から労働者協同組合、高齢者生協、NPO、労働者の方々、いま職を失って仕事を求めておられる方々、あるいは大学の教職員・学生の皆さん、各界各層からたくさんの方々にご参加いただいております。これも改めてお礼申し上げます。

私たちは、新しい世紀を迎えるにあたって、20世紀の戦争と経済至上主義に区切りをつけて、共に生きる＝共生と持続可能な経済社会を目指して、経済的な価値よりも社会的な価値を優先する、そのような新しい市民の協同による福祉社会の創造、ということを目的にしました。ところが、世界を見ていますと先行きはますます不透明感を増しているという状況ではないか、と思っております。

自殺者が3万何千人となりますます増加している、あるいは完全失業者が370～380万人に達しているという状況。相次ぐ企業倒産。食肉や原子力問題で露呈したトップ企業の驚くべきモラル喪失。こういうものを見ておりますと、今日の社会というのが大変な金属疲労を起こして、限界に来ているのではないか、という感じを持つ訳です。そして、今日では、極めて非人間的なテロと戦争が現実的で深刻な問題になっている、いう状況でもございます。

だが他方、この悲劇的現状にストップをかけ、転換させるというところにまでは至っていませんが、人間の良心と叡智を生かして、人と社会と自然の共生と調和を求めて、新しい生活と労働で仕事をつくり、地域社会を創造しようとする新たな胎動が生まれている。そして新しい社会的な力となりつつある、ということも私たちは知って

おります。

そこで、私たちはこの新しい胎動、力を社会的な成長と成功に進めたいと願っております。そのためには、私も長く協同組合をやってきておるのですけれども、やはり自らが所属している組織が、絶えず社会的な存在価値を持ちうるのかと、いうことを自ら問い続けるということが必要ではないかと思います。その上で新しい人と組織のネットワークの形成に努める、そして住みやすい地域社会の建設に努力するということが必要ではないかと思っているわけです。

この集会が、私たちが共に生きて共につくる、暮らしと地域の新たな発展の契機となることを願うものであります。